

特集 第11回 日野川への想いを語る会

平成17年11月24日(木) 於 伯耆町役場溝口分庁舎

今回で第11回目となる「日野川への想いを語る会」が伯耆町役場溝口分庁舎で開催されました。日野川流域の市町村長と河川を管理する鳥取県と国土交通省日野川河川事務所により「日野川流域の水利用について」をテーマとして色々な取り組みや想いを紹介し意見交換を行い、あわせて第8回日野川フォトコンテストの入賞者表彰式と米子市水道局長による特別講演が行われました。

～意見交換会 テーマ「日野川流域の水利用について」～



米子市



田中 水道局長

日野川流域として恵まれた環境の中、今年の夏も鳥取や松江等、節水の呼びかけをされていましたが、米子市は、取水井戸等を多く持っている関係で市民の皆さんに節水を呼びかけることなく推移しました。

米子市は日野川及び法勝寺川間の米川用水路でお世話になり、米・白ネギ・たばこ・ニンジンという弓浜部の名産品のもとになり、あわせて旧加茂川の浄化にも使わせてもらっています。

現在米子市は228ヘクタールの分収造林事業を、水道局が100ヘクタールの水源涵養林を設置しています。

メーター検針の際にも「日野川をきれいにしようと思ったら森を大切にしよう」のコメントを入れ積極的にPRに取り組んでいます。

日野川一斉清掃には我々の呼びかけに多方面から参加頂きその輪が一層広がるよう推めています。

下水の関係では日野川水系の公共下水道及び農業集落排水事業を両方やっており、既にわずかですが供用を開始しました。「水と空気のおいしいまち」のまちづくりを積極的に推進するためにやはり日野川は必要不可欠という認識のもと取り組んでいるところでございます。

日吉津村



石 村長

我が村は日野川の最下流に位置しているため、日野川の恵みを一番受けていると考えています。また、日本海の海岸線、そこに注ぐ日野川は村の貴重な自然です。

近年、海岸での不法投棄が目立ちます。村内には日野川の水を使っておられる企業や、小売業を営む企業、また日赤など村内団体の自主的なボランティア活動によって、役場も支援しながら年2回、海岸線とあわせ日野川の河川敷の清掃をしていただいております。企業、地元住民あわせて600人位の方の参加からも、村民の河川・海岸に対する想いの一端が理解していただけたと思います。

今年で3年目になりますが、夏休みに村内の小学校3年以上の児童により、農業用水を歩いて遡上したり、ボートで河口付近まで下ったり、水と自然に触れ合う行事が村内で実施されています。また、「水辺の楽校」が日野川河川事務所の協力で進んでおり、来年には全国スポレクで、ターゲットバードゴルフ競技がこの水辺の楽校を使って開催されます。子どもからお年寄りまで貴重な河川敷空間を利用できるお礼をあわせて申し上げます。

伯耆町



住田 町長

他地域に自慢できる水ということでは、全国いろいろな候補地の中から、コカ・コーラグループによるミネラルウォーターの製造工場が進出しました。「森のみずだより」のネーミングで売り出しています。

良質な水を利用した特産としては、酒があります。久米桜酒造の「八郷」、かつては安達酒造の「養老泉」が、また野上川の源流米を使っている「酒づくりの会」などの積極的な取り組みがあります。

旧溝口町では水道の未普及地域がありますが、豊富で良質な水を試掘してその水源で水道施設を一本で結んでいく計画を進めています。

それから二部地区では住民が河川ボランティアで掃除、草刈りなどを行っており、森林を守る活動では大山榎水高原横手上のブナを守る会、育成する会が立ち上り、ブナの苗木約800本を移植したところです。

先ほどの酒の話では、八郷米をブランド化しようという盛り上がりがあります。米フェスタの会を毎年開催しており、消費者が田植、稲刈りなどに参加し大変喜んで頂いております。

別所川の渓流植物園でも、水と生物のかかわりなど、子ども達に水と親しんでもらえるよう取り組みをしているところです。